

---

# 2014 年度 事業報告書

---

特定非営利活動法人  
アントレプレナーシッ  
プ開発センター

---

〒604-0866

京都市中京区西方寺町 160-2

船越メディカルビル 3F

TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

---

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの:

## アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

### 目次

はじめに .....	2
2014 年度 活動報告 .....	3
2014 年度 決算報告 .....	3

## はじめに

2014年度は、2000年から運用している仮想企業経営プログラム『バーチャル・カンパニー (Virtual Company)』を改め、『ユース・エンタプライズ (Youth Enterprise)』として新しく開発、プロジェクト管理や発信、第三者の参画が気軽にできる機能などを追加し、4月からサービスを提供しています。また、インドネシアのNGOと連携し、社会問題の解決に貢献できるソーシャル・リーダーの育成・交流事業を開始しました。このプログラムでは秋に6名の若者達が来日し20日のホームステイと研修を経て帰国、27年の3月には日本の研修生の募集を行い、既に派遣生6名が8月末からのインドネシアでの研修に向けて準備学習を行っています。

社会人に向けても、京都産業21の起業家セミナーの企画・運営を行い、受講生から大変高い評価を得た講座となり、卒業生の多くが、セミナー後に起業されています。

そして、これら新しい事業に加え、2004年から実施している高校生対象の国際競技「Global Enterprise Challenge」では、国内予選でトップチームだった同志社国際高等学校がドイツにて他国のチームと一緒に世界大会に参加し、残る2校の京都市立西京高等学校と青山学院高等部の混成チームがオンライン参加しました。3チームとも健闘しましたが、残念ながら入賞には至りませんでした。その後の24時間のISEC (International Science Enterprise Challenge) では、昨年度に続き、日本代表チーム (青山学院高等部&東京学芸大学附属国際高等学校の混成チーム) が優勝しました。2015年の大会も、3月に国内予選を開催し、北海道から九州まで45校29チーム約200人が参加し、うち3チームが6月の世界大会に向けて準備中です。最初1校から始まった競技でしたが、最近では、高校生自らネットで検索して応募してくる全国規模の競技となり、時代がついてきた感があります。

また、小学生から大学生が参加する仮想企業の実践見本市である「トレードフェア」も14回目を開催することができ、インドネシアからの出展者があったり、地元の京都放送に大きく取り上げていただいたり、参加者にとって良い実践発表の場となりました。

その他、障害者の就労支援事業でも京都府と連携して次年度の施策づくりに参画し、2年前のプラットフォーム事業から生まれた「福祉から雇用」応援事業にて、今まで就職のための支援がほとんど受けられなかった就労継続支援B型事業所の利用者30名を就職につなげることができました。また、モンゴルでのアントレプレナーシップ推進に協力するなど、普及活動にも尽力しました。

収支的には、二年連続の赤字となり、苦しい状況ではありますが、新しい事業を生み出す投資の時期ととらえ、今後さらに取組みを充実させるよう尽力したいと考えておりますので、どうか引き続きご支援・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

平成27年5月

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター  
理事長 原田紀久子

## 1. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信事業

### ●HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

随時 HP やブログや Facebook に活動情報や報告を掲載。また、毎月 25 日に約 6,000 人にメールマガジンを配信。

HP アドレス：<http://www.entreplanet.org/>

ブログアドレス：<http://blog.canpan.info/entreplanet/>

Facebook アドレス：<https://www.facebook.com/entreplanet>

### ●モンゴルにてアントレプレナーシップ教育の紹介 【平成 26 年 11 月 10 日&11 日】

国立モンゴル大学と労働省等が同国で初めて開催した第一回目の Entrepreneurship Summit にゲストスピーカーとして招待され、日本の取組みについて紹介するとともに、モンゴル大学のカリキュラム開発について助言させていただきました。<http://entrepreneurship.mn/>



## 2. 実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援事業

### ●ユース・エンタプライズ (Youth Enterprise)

『ユース・エンタプライズ』は、小学生～大学生が取り組む起業活動や課題解決型プロジェクトの進捗管理や活動発信をしながら、互いにオンライン上で交流できる教育プログラムとして当センターが新しく開発したものです。本プログラムは、2013 年まで実施していたビジネスのシミュレーションプログラム『バーチャル・カンパニー』の発展的プログラムで、それまで参加者だけの閉じたモールでの仮想企業運営だったものが、今回は、第三者の方々が気軽に閲覧・事業評価できるようになっています。

今後、より多くの学校の実践が集まるアントレプレナーシップ教育のプラットフォームサイトとして機能することを期待しているものです。



## ●グローバル・エンタプライズ・チャレンジ (Global Enterprise Challenge )2014

Global Enterprise Challenge (GEC) は、若者のイノベーションへの興味を喚起するために、高校生を対象に、2001年に始まった国際イベントです。日本では、当センターが窓口となり2004年から代表チームを派遣しており、6月14日に開催された世界大会は、オーストラリアの非営利団体ABW Enterprise Educationが事務局を勤め、NASA(米航空宇宙局)やWIPO(世界知的所有権機関)も支援し、2014年は、日本からの3チームも入れ、16カ国、44チームが参加しました。優勝は、当センターがその参加を支援したカンボジアのSisowath High Schoolが受賞しました。

日本は、国内予選で1位に入賞した同志社国際高等学校がドイツ、マインツでのEuroHubにてウェールズ、ドイツ、ノルウェーのチームと一緒に参加し、2位の京都市立西京高等学校チームと3位の青山学院高等部、桜蔭高等学校、東洋英和女学院高等部の混成チームはオンライン参加しました。

3チームとも健闘しましたが、入賞には至りませんでした。しかし、GECの修了後の8月27日～28日にかけて開催された「International Science Enterprise Challenge (iSEC)」の24時間競技では、見事、日本の青山学院高等部&東京学芸大学附属国際高等学校の合成チームが優勝しました。

共 催：ABW Enterprise Education, NASA (アメリカ航空宇宙局)、WIPO (世界知的所有権機構)

助 成：日本万国博覧会記念基金 (公益財団法人関西・大阪21世紀協会)

特別協賛：京都外国語大学、株式会社大貴

協 賛：株式会社アナテック・ヤナコ、株式会社京進、株式会社島津製作所、スターマーク株式会社、日東薬品工業株式会社、ニチコン株式会社、株式会社堀場製作所

後 援：経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学、高等学校連合会、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会 (公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都経済同友会、一般社団法人発明協会京都支部)、独立行政法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

### 【国内予選】 3/21(土) 8:00AM-20:00PM

<課題(challenge)>

“to develop a business plan involving adaptation to climate change. You will be pitching your proposal to a panel of venture capitalists whose backing you will need in order to make your plan a reality. Keep in mind that these investors are particularly interested in ideas that involve information-technology solutions and that can be marketed internationally. So design your pitch accordingly.”

#### ■入賞チーム

- 1位 『Global Food on Demand』(同志社国際高等学校 チーム)
- 2位 『Agricultural Bank Company』(京都市立西京高等学校チーム)
- 3位 『Moffice Project』(青山学院高等部、桜蔭高等学校、東洋英和女学院高等部チーム)



**【世界大会】 6/14(土) 8:00AM-20:00PM**

<課題 (challenge) >

"Design an innovative exhibit that can be used to inform communities, government, and the media about the benefit of family farming. The exhibit could be a trade display and/or a website and could include working models, smart phone apps, social media, print and other material."

■入賞チーム

- 1位 『SMART FOOD』 (Sisowath High School,カンボジア)
- 2位 『Produce Caboose』 (Academy for Business and Finance, ニュージャージー、アメリカ合衆国)
- 3位 『Green Space』 (Stuyvesant High School, ニューヨーク、アメリカ合衆国)
- Creativity 賞 『The Bee Exchange』 (Young Enterprise Trust ,ニュージーランド)



**【アジア大会】 International Science Enterprise Challenge (iSEC) 8/27 日(水) 11:00~8/28(木) 11:00**

iSECは Singapore Science Centre にて開催され、インドネシア、シンガポール、日本から各2チームが参加し、24時間の競技に挑戦しました。日本からは京都の同志社国際高等学校チームと東京の青山学院・東京学芸大学付属の混成チームが参加し、見事、東京チームが優勝しました。

<課題(challenge) >

"Produce a household size water purification system, which is low in cost and yet effective in removing common pollutants from ground water as well as water from other sources not fit for human consumption."

■入賞チーム

- 1位 日本チーム (青山学院高等部&東京学芸大学附属国際高等学校の合成チーム)
- 2位 インドネシアチーム

## ●グローバル・エンタプライズ・チャレンジ (Global Enterprise Challenge )2015

Global Enterprise Challenge 2015 の国内予選を3月21日に実施いたしました。今年は29チームで約200名が参加し、12時間以内に英語によるA4で2ページのビジネスプランと3分間のビデオプレゼンテーション(オプションとしてパワーポイント)を提出し、接戦の末、以下、上位3チームが6月13日の世界大会に参加が決定しました。

<課題> “ With the rapid development of information technology, forms of communication have changed dramatically. Facebook, Twitter, YouTube, Skype, Line, instant messaging, video conferencing, web meetings: These and many other collaboration and social media platforms are now an everyday part of people’s lives around the world. At the same time, the number of cases of young people becoming involved in unfortunate incidents or crimes is increasing. These problems are made worse by the fact that the users themselves are not aware of the risks of using these convenient communication platforms, and even their guardians are not fully prepared to handle them properly. There are some entrepreneurs who are keen to invest in business ideas which will protect children from such unfortunate incidents or crimes. Your challenge for the 2015 GEC National Competition is to produce a working model of an innovative product or service which these entrepreneurs will find interesting and want to provide funding to realize your idea. “

### ■国内予選入賞チーム

- 最優秀賞 『iCorrect』(開成高等学校 Vision.inc チーム)
- 優秀賞 『COMPASS』(京都市立紫野高等学校 Murasakino チーム)
- 三位 『SafePop』(同志社国際高等学校 Doshisha Kokusaiチーム)



## ●ソーシャルリーダー育成・交流事業 「GMB -‘Gerakan Mari Berbagi’ (共に分かち合おう)プログラム」

日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業「GMB -‘Gerakan Mari Berbagi’ (共に分かち合おう)プログラム」は、異なる文化や価値観を理解・共有し、広い視野と分かち合いの精神を持って社会に貢献できる次世代リーダーを育成することを目的に、2012年にインドネシアの起業家アズワル・ハサン（Azwar Hasan）によって開始されました。初年度の2012年は、12人のインドネシア人が11月にオーストラリアでホームステイしながら研修プログラムに参加しました。

その後、2014年から派遣国に日本が加わり、厳しい選考と研修を経て選ばれた社会事業に取り組んでいる22～25歳の若者6名が11月6日から来日し、日本の一般家庭にホームステイしながら、企業や行政・NPO団体などの取り組みを見て研修を受けました。また、各自がインドネシアで取り組む社会事業活動について、11月24日に京都大学で開催された起業家教育の実践発表会である「ユース・エンタプライズ トレードフェア」にて、日本の大学生などに交じって、その活動を発表し、日本の参加者達と交流しました。



□滞在期間：2014年11月6日（木）～27日（木）

□助成：（公財）双日国際交流財団 国際交流助成

本事業は、今後、インドネシアと日本の相互のソーシャルリーダー派遣プロジェクトとして、2015年には、日本でもソーシャル活動に取り組む若者を選抜し、インドネシアでホームステイしながら、現地の社会事業に参画したり、同年代の若者と交流します。そして、長期的には、このような活動を続けることで、偏見のない社会づくりや、世界共通の課題解決と一緒に取り組めるグローバル人材の育成に寄与したいと考えています。



### 3.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

#### ●ユース・エンタプライズ・トレードフェア 2014

今年で14回目を迎えた「トレードフェア」ですが、参加校の取り組みが仮想（バーチャル）から実際の商品化へと発展してきたこともあり、名称を『ユース・エンタプライズ トレードフェア』と改め、11月24日に京都大学で開催致しました。

当日は、全国各地から26チーム（小学生1チーム、中学生1チーム、高校生1チーム、大学生22チーム、来日インドネシア人1チーム）が参加し、日頃、ネット上で活動を発信している取り組みの成果を展示やプレゼンテーションを通じて発表し、互いに交流し、学び合いました。また、今年も、別のソーシャルリーダー育成事業 Gerakan Mari Berbagi（共に分かち合う）プログラムで来日したインドネシア人6名も参加し、母国で実施している社会事業について紹介し、日本の若者達に良い異文化理解の機会を与えてくれました。

交流セッションでは学校の枠や国籍を超えてチームを組み、当日出された課題で、新商品の開発に楽しみながら挑戦し、大いに盛り上がりました。

事業終了後の参加者アンケートでは、参加者の96%が「大変学ぶことがあった」または「学ぶことがあった」と回答しています。そして、学ぶことがあったこととして約7割の参加者が「ブースでの販売活動」や「他校の学校の取り組みを見られたこと」「一般のお客さんや審査員から意見が聞けたこと」を上げており、「トレードフェアのような発表の場があることで目標を持って活動出来た」と述べています。また、96%の参加者がこのような学習が「新しい事業を提案したり起業したりする上で役立つ」と答え、97%が「将来の職業を考える上で役立つ」「仕事を通じて社会貢献する能力を培うのに役立つ」と回答しています。

#### ■参加者

約550名(内訳:学生・指導者約250名,その他来場者約300名)

#### ■広報やマスコミ取材

- 2014年10・11月号 土曜塾に掲載（京都市内全校約250校10万人配布の活動誌）
- 2014年11月25日 京都新聞 日刊 掲載
- 2014年11月26日 KBS京都（フェイス）にて特番ニュースとして放送
- 2014年12月5日 KBS京都（京bizS）にて再放送
- 当センターのHPやSNS、メールマガジンにて配信（6～12月）配信数約5000/月
- その他多数のメールマガジンや掲示板にても多数活動紹介



KBS 京都放送から取材をうける出展者

主催:トレードフェア実行委員会

協賛:有限会社アミックス、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、オムロンパーソネル株式会社、京都信用金庫、京都中央信用金庫、Gerakan Mari Berbagi 財団、株式会社島津製作所、株式会社大貴、公益財団法人本田財団

広告協賛:株式会社井筒八ツ橋本舗、オムロン パーソネル株式会社、株式会社京織（京都さかの館）、よーじやグループ

商品協賛:有限会社アミックス、異能工房(コワーキングスペース)、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社如月社（京都シネマ）、よーじやグループ

後援:経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府立高等学校PTA 連合会、京都市PTA 連絡協議会、京都府私立中学高等学校保護者会連合会、京都府私立中学高等学校連合会、全国高等学校進路指導協議会、全国中学校進路指導連絡協議会、日本社会科教育学会、一般社団法人日本教育情報化振興会、公益財団法人全国商業高等学校協会、日本キャリア教育学会、特定非営利活動法人日本シミュレーション&ゲーミング学会、公益財団法人京都産業21、京都中小企業家同友会、公益社団法人京都工業会（青少年と科学の会）、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都経済同友会、一般社団法人京都発明協会

## 【活動内容】

### 10:00 開会式

主催者挨拶：市原 達朗（トレードフェア実行委員会 委員長）

開会宣言：根岸 リイン（La beauté 社長 共愛学園前橋国際大学2年生）\*昨年度の知事賞受賞校



### 10:15 参加チームのブース展示・プレゼンテーション

全国から集まった小学生～大学生のチームが、自分たちが取り組むプロジェクトの商品をブースにて販売。同時に事業内容のプレゼンテーションを行いました。この間、審査員が、参加チームの実践を、事業内容・社会貢献度・地域との連携・展示販売や発表方法などを総合的に見て、評価しました。



### 14:15 参加者の交流セッション

本セッションでは、出展者が自分の学校とは違う人と5,6名のチームを組み、当日出された課題にそって商品開発に挑戦しました。今年は、「5枚のビニール袋を使って新商品を提案しなさい」というものでした。

参加者は、チームで協力し合いながら楽しくアイデアを出し合っていました。最後に、チームの代表がステージでアイデア商品を披露し、その中で一番評価の高かったチームに協賛企業でもある有限会社アミックス 代表取締役の手島昭様より賞品が贈られました。





## 15:30 ゲスト講演

インドネシアから日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成事業 **Gerakan Mari Berbagi** (共に分かち合う) プログラムで来日している 6 人の若者達が、現地で実施している社会事業について紹介し、その後、日本の唱歌「故郷」を日本語で歌った後、インドネシアの伝統的な踊りを当日の出展者と一緒に踊りました。



## 16:00 審査結果の発表と表彰式

審査は、10名の審査員が、トレードフェアに出展する前のインターネットでの活動発信の内容を見ての事前評価と、トレードフェア当日の展示ブースでの販売や接客、プレゼンテーションの発表の内容についての評価を総合して審査し、優れた実践に対して賞を授与しました。



- ◎京都府知事賞 (社会貢献度が最も高かったチーム)  
La beauté、共愛学園前橋国際大学
- ◎京都工業会賞 (科学技術の分野(製品:ものづくり)において新しい発想があったチーム)  
上州麦翔屋、共愛学園前橋国際大学
- ◎京都経済同友会(地域コミュニティーに貢献度の高いチーム)  
ALBA、同志社女子大学
- ◎京都中小企業家同友会賞(ビジネスモデル(サービス)に新規性や独自性の高かったチーム)  
桑工房、共愛学園前橋国際大学
- ◎異能工房賞(実際に起業するなら応援したいチーム)  
cerchio、同志社女子大学  
K-Braille 近畿大学
- ◎スチューデント賞(生徒が選ぶ最も優れたチーム)

切畑亭鶴林、共愛学園前橋国際大学

◎ベストショップ賞（一般来場者が選ぶ最も優れたチーム）

流彩 27、京都市立養正小学校

◎特別賞

ぶんぶん畑、愛知学院大学

MNC（美木ナチュラルカンパニー）、尾道市立美木中学校

八重さんグッズ商品企画PJ、同志社中・高等学校

GMB プロジェクト、インドネシア人チーム

17:00 閉会のご挨拶

山下 晃正（京都府 副知事）



●京都府知事賞 受賞チーム『La beauté』（共愛学園前橋国際大学）

「女性の美」への想いを叶える商品として「こんにゃく野菜タルト」を開発・販売。



「こんにゃく野菜タルト」

●京都工業会賞 受賞チーム『上州麦翔屋』（共愛学園前橋国際大学）

群馬県産の小麦とドライ野菜を使った「むぎおこし」を開発・販売。



「むぎおこし」

●京都経済同友会賞 受賞チーム『ALBA』（同志社女子大学）

「玉露が繋ぐ絆」をコンセプトに、日本一の品質を誇る京田辺の玉露をより多くの地域の方々に知ってもらうことを目的として活動。



「玉露 de 祝賀会」

●京都中小企業家同友会賞 受賞チーム『桑工房』（共愛学園前橋国際大学）

群馬の桑茶を利用した新たな食文化への挑戦として「桑ジャム」を開発・販売。



「桑ジャム」

●異能工房賞 受賞チーム『cerchio』（同志社女子大学）

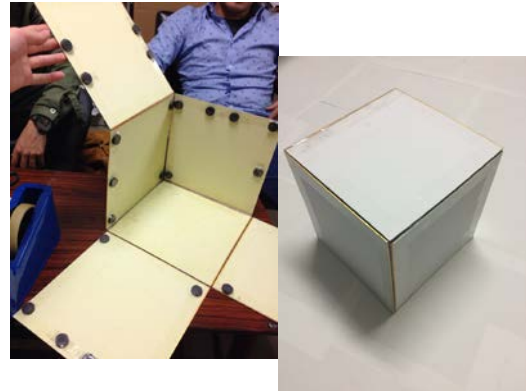
京田辺の一休品である一休みそを使用したどらやきの商品開発、販売。



「一休どらやき」

● 異能工房賞 受賞チーム『K-Braille 』(近畿大学)

子供からお年寄り、健常者や視覚障がいを持つ方、すべての人が利用することができる「キュービックメニュー」を開発。



「キュービックメニュー」

● スチューデント賞 受賞チーム 『切麺亭鶴林』(共愛学園前橋国際大学)

”群馬を食べる”をコンセプトに群馬県内の隠れた特産品「おっ切りこみ」を利用して「幸福麺」を開発し、販売。



「幸福麺」

● ベストショップ賞 受賞チーム 『流彩27』(京都市立養正小学校)

「和菓子で伝えよう！養正地域のよさ」のテーマのもと、大文字と紅葉をイメージした和菓子を開発・販売。



「秋彩」

●特別賞 受賞チーム 『ぶんぶん畑（愛知学院大学）』

垂井の歴史・自然資産を生かし垂井を活性化することを目的に、御菓子の開発・販売。



「かぼちゃもちもち」と「はんべえのごはんやお」

●特別賞 受賞チーム 『MNC（美木ナチュラルカンパニー）』（尾道市立美木中学校）

化学薬品等は一切使っていない自然の恵み「落ち葉」から作った良質腐葉土の開発・販売。



「美木の腐葉土」

●特別賞 受賞チーム 『八重さんグッズ商品企画PJ（同志社中・高等学校）』

八重の桜をイメージした会津木綿を使用したガマロを開発・販売。



「会津木綿を使用したガマロ」

### ●特別賞 受賞チーム 『GMB プロジェクト』(インドネシア人チーム)

ソーシャルプロジェクトで農家の主婦達に作り方を教えて製作したリサイクルバッグの販売。ブースではリサイクルバッグの作り方を指導。



## 4. 起業や事業運営に関わる研修やコンサルティング事業

### ●平成 26 年度起業家セミナー

公益財団法人京都産業 21 の委託で「起業家セミナー」の企画運営を行いました。

開催期間:平成 26 年 10 月 11 日(土)～11 月 29 日(土)[10/25 を除く毎週土曜日全 7 回

場 所: 京都府産業支援センター



### ●兵庫六甲農業協同組合「農業経営者塾」

兵庫六甲農業協同組合にて主催されている「農業経営者塾」にて「経営計画立案」を担当しました。

開催日:平成 26 年 5 月 30 日(金)&27 年 3 月 5 日(木)

場 所:JA 兵庫六甲三田営農総合センター

### ●亀岡市立西別院小学校でアントレのミニワークショップ

開催日:平成 27 年 2 月 6 日(金)

場 所: 亀岡市立西別院小学校



## ●その他講演等

- ・ 平成 26 年度経済産業省「初等中等教育段階における起業家教育の普及に関する検討会」にて事例紹介（2015/2/24）
- ・ 亀岡市立西別院小学校にてアントレのワークショップ実施（2015/2/6）
- ・ 佛教大学にて講演「日本でのアントレプレナーシップ教育の促進と課題」（2014/12/5）
- ・ 野洲市企業人権啓発推進協議会の経営者・管理者研修会にて講演「求められる起業家的人材と教育の必要性」（2014/5/23）
- ・ 佐野青年会議所 例会 講演「地域の担い手を育てるために～求められる起業家的人材と教育の重要性～」（2014/4/10）

---

## 5. 障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス(就労支援事業)の提供やその支援

---

### ●平成 26 年度京都府「福祉から雇用」応援事業【就労継続支援 B 型事業所等】

本事業は、障害者働き支援隊を設置し、就労支援機関等と連携を図ることで、就労継続支援 B 型事業所等で働く障害者を就労支援機関につなぎ一般就労への移行を促進することを目的に昨年度から始まったもので、今年度はこの事業を通じて30人以上の方が就職されました。

当センターは、支援隊のメンバーとして支援員の方々のフォローや研修企画、障害者雇用を行っている企業や就職した先輩の話聞く会の開催などを行いました。

### ●京都府ベンチャー事業研究会[「障害のある方の一般就労への移行を進めるためのシステム作り～地域で障害のある方がはたらく社会を目指して～」

障害のある方の就労を促進するために、京都府の様々な部署の職員の方と民間の関係者が集まり、新しい施策づくりのために研究・議論し、平成 2 7 年度の施策にいくつかの提案が採用されました。

#### 【活動内容】

- 平成26年3月18日（火）：第一回会議
- 平成26年4月15日（火）：第二回会議
- 平成26年6月6日&7日（金）：第三回会議
- 平成26年6月24日（火）：第四回会議
- 平成26年8月8日（金）：第五回会議
- 平成26年8月21日（火）：第六回会議
- 平成26年8月29日（金）：第七回会議
- 平成26年10月1日（水）：知事報告会



---

## 6. その他 この法人の目的を達成するために必要な事業

---

### ●公的な委員等

- ・ 京都府地域創生推進会議委員
- ・ 京都府府民力推進会議委員
- ・ 京都府雇用創出・就業支援計画推進会議委員
- ・ 京都府障害者雇用促進会議委員
- ・ 京都府工賃向上計画検討委員、

## ■□2014年度メディア掲載等-----

当センター支援している活動が以下のマスメディアで紹介されました。

- ・ 2015年1月19日 京都新聞 「学生、地域連携授業盛ん 若い感性受け入れ側刺激」
- ・ 2015年1月18日 洛南タイムス 「地域のつながり 深まれ 同女大がイベント 京田辺のキララ商店街で 「一休どら焼き」に舌鼓」
- ・ 2015年1月16日 洛南タイムス 「一休どら焼き」お試しを 京田辺 同女大と農産物直売所 みそPRへ 共同開発」
- ・ 2014年12月5日 KBS 京都テレビ 「kyoBiz 21:00 kyotoindex 「目指せ将来の起業家!若者を育成する見本市」」
- ・ 2014年11月26日 KBS 京都テレビ 「news フェイス 17:45-特集「若き起業家が京都に大集合!若者を育成する実践見本市」」
- ・ 2014年11月25日 京都新聞 「起業家の心 学生学ぶ 京大でフェア」
- ・ 2014年8月8日 日本経済新聞 「アントレプレナーシップ教育 起業家精神 授業で養う」
- ・ 2014年6月10日 京都新聞 「グッジョブ! 世界と交流 日本代表・同志社国際高チーム」
- ・ 2014年4月17日 KBS 京都テレビ 「News フェイス」の番組にて GEC 国内予選優勝の同志社国際高等学校チームが紹介されました。

## 平成 26 年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

自平成 26 年 4 月 1 日 至平成 27 年 3 月 31 日

科目		金額	
I	経常収益		
	1. 受取会費		
	正会員受取会費	220,000	
	賛助会員受取会費	72,000	292,000
	2. 受取寄附金		
	受取寄付金	2,453,520	2,453,520
	3. 受取助成金等		
	受取助成金	1,132,000	1,132,000
	4. 事業収益		
	教育教材開発・導入支援事業収益	1,077,892	
	普及促進事業収益	723,600	
	研修・講座事業収益	1,106,680	
	就労支援事業収益	1,224,000	
	その他	61,000	4,193,172
5. その他収益			
受取利息	1,391	1,391	
			8,072,083
	経常収益計		
II	経常費用		
	1. 事業費		
	(1) 人件費	6,283,833	
	(2) その他経費		
	事業費計		10,044,321
	2. 管理費		
	(1) 人件費	583,903	
(2) その他経費			
管理費計		820,251	
	経常費用計		10,864,572
	当期経常増減額		-2,792,489
III	経常外収益		0
IV	経常外費用		0
	経常外費用計		
	税引前当期正味財産増減額		-2,792,489
	法人税、住民税及び事業税		70,000
	当期正味財産増減額		-2,862,489
	前期繰越正味財産額		22,496,805
	次期繰越正味財産額		19,634,316

## 平成 26 年度「特定非営利活動に係る事業」貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金	110,932		
普通預金	22,455,617		
立替金	83,216		
前払費用	55,164		
未収入金	43,200		
流動資産合計		22,748,129	
2 固定資産			
保証金(敷金)	500,000		
固定資産合計		500,000	
資産合計			23,248,129
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	347,188		
前受収益	200,000		
預り金	66,625		
流動負債合計		613,813	
2 固定負債			
退職給与引当金	3,000,000		
固定負債合計		3,000,000	
負債合計			3,613,813
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		22,496,805	
当期正味財産増加額 当期収支差額	(2,862,489)	(2,862,489)	
正味財産合計			19,634,316
負債及び正味財産合計			23,248,129

